



四 十 町 へ の 交 通 ア ク セ ス  
T R A N S P O R T A C C E S S



下記表記は、四十町の窪川駅までの所要時間です。

**自動車を利用した場合（高速道路利用／航路利用）**

- 神戸淡路鳴門自動車道／瀬戸中央自動車道を利用の場合、高知→四十町中央インターで降りてください。 ●松山道・三間ICから一般道（約1時間45分） ●八幡浜港から一般道（約2時間30分） ●宿毛港から宿毛道路経由一般道（約1時間30分）

**鉄道を利用した場合（JR山陽新幹線・岡山→JR土讃線→窪川駅）**

- [窪川駅までの所要時間]
  - ①東京駅から：約8時間 ②新大阪駅から：約6時間 ③博多駅から：約6時間
  - ④高知駅から：約1時間

**飛行機（高知龍馬空港）を利用した場合**

- 高知龍馬空港までの所要時間
  - ①羽田から：約1時間15分 ②大阪から：約45分 ③福岡から：約55分
  - 高知龍馬空港から窪川までの所要時間
    - ①レンタカー・高知道利用：約1時間15分
    - ②空港バス（高知駅からJR）：約1時間45分

**高速バスを利用した場合**

- 京都・大阪・神戸方面から窪川駅経由宿毛行き（夜行）のバスが運行されています。
  - [窪川駅までの所要時間] ①京都から：約10時間 ②大阪から：約7.5時間

四 十 町 へ の 移 住 の お 問 い 合 わ せ

四十町役場 にぎわい創出課

〒786-8501 高知県高岡郡四十町琴平町16番17号

tel 0880-22-3281 (8:30~17:15 土・日・祝休)

e-mail [iju-40010@town.shimanto.lg.jp](mailto:iju-40010@town.shimanto.lg.jp)

hp <http://www.town.shimanto.lg.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/shimantotown/>



四 十 町 へ の 旅 の お 問 い 合 わ せ

(一社)四十町観光協会 SHIMANTO TOWN TOURISM ASSOCIATION

tel 0880-29-6004 fax 0880-22-2570 (9:00~17:00 年中無休)

e-mail [info@shimanto-town.net](mailto:info@shimanto-town.net)



THIS IS THE WATER

水と呼べる水。



川と、  
RIVERS



海と、  
SEA



山と、  
THIS IS THE MOUNTAINS



青空と、

BLUE SKY



星空と、

STARRY SKY



田んぼと、

RICE FIELDS.



畑と、

VEGETABLE FIELDS.



写真提供：公益社団法人生態系トラスト協会

# PLAYING IN THE RIVER



暑い時は泳げばいい。

暑いなあ。

ちょっと川に行ってこよっと。

ちょっと川に入ってこよっと。

お天気もいいし、

仕事は明日にして、

川で遊んでこよっと。

ああ便利。

いつでも泳げる  
川がある日常。



# HIKING IN THE MOUNTAINS



四万十川が生まれるところ。

対岸はオーストラリア。



# PLAYING IN THE SEA

# CYCLING

ALONG THE RIVER



しまんとがわにチリンチリン

走る旅

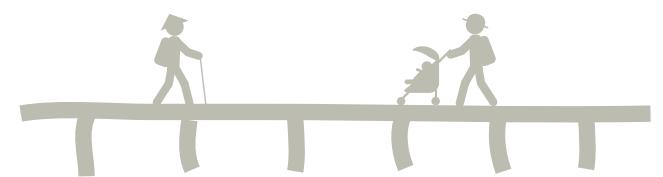


# MARATHON

ALONG THE RIVER



こつちから  
あつちへ  
渡る。  
あつちと  
こつちを  
結ぶ。



## 沈下橋

CHINKABASHI

橋に欄干がないのは、川が増水した時に、  
流木や土砂が引っかかって橋もろとも流されるのを防ぐため。  
橋そのものの位置が低いのも、  
増水時には流木などが沈んだ橋の上を通過するように考えである。  
万が一壊れても再建しやすいこともある。  
川に生きる人々にとって、  
あつちとこつちを行き来する  
暮らしの象徴である。



THIS IS THE MARKET.

いつでも本物が  
食べられる日常。



いたるところに良心市。

無人市のこと。高知県では良心市という。

音感が柔らかいし、お店のオーナーとの交流感がある。

国道沿いにもあるし、いなか道にもあるし、街中にもある。

農家の庭先野菜が出されている。

いつもあるわけではない。

出し手の気まぐれが基本ではある。

それがまた楽しい。

# い つ で も 本 物 が 食 べ ら れ る 日 常



伊勢海老など海産物いろいろ



牛・豚・鶏など畜産品いろいろ



地元産牛乳加工品いろいろ



平飼い・有精卵など鶏卵いろいろ



うなぎ



四万十川の天然鮎



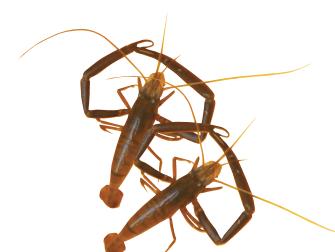
シイラなど  
海産物いろいろ



牛・豚・鶏など畜産加工品いろいろ



地元産鶏卵加工品いろいろ



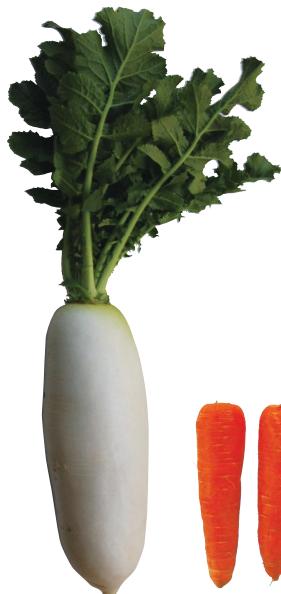
ヤマトテナガ海老・ツガニなど川産物いろいろ



天然鮎の焼き鮎など



天然鮎の風干し（一夜干し）



# いつでも本物が食べられる日常

季節の野菜：大根、人参、玉ねぎなど定番野菜いろいろ



天日塩



季節の野菜：豆類いろいろ



しょうが



季節の野菜：トマト・ピーマンなど夏野菜いろいろ



お米



糀・塩麹・醤油糀など・米味噌・麦味噌・大豆味噌など・納豆など発酵食品いろいろ



日本ミツバチのハチミツ（↑蜜臘）



原木しいたけなどきのこいろいろ



季節の野菜：菜花など春野菜いろいろ



米粉・米粉の加工品など

# 楽しいにんげん

## THIS IS THE PEOPLE.

いつでも本物が食べられる日常



★木こり時々俳優  
福山 聖児  
SEIJI FUKUYAMA

聖ちゃんの本業は林業の会社に勤める木こりさんだ。ヘルメットを被ってチェーンソー一担いで山を登っていく。切った木を運び出す時には、専門の重機を巧みに操る。すごくイケメンだ。男前。カッコイイ！でもそれだけではないんだ。この人。

糸川町が平成の大合併で四万十町になる少し前の2000年に始まった、町民ミュージカル「谷干城ミュージカル」というのがある。このミュージカルに初演から参加している俳優さんなのである。

「なーーんだ、町民ミュージカルって素人たちの趣味でしょ。学芸会みたいなもんね」と誰もが思うのも無理はないんだけど、どっこい、これがたまげるほどの完成度なのだ。中

でも聖ちゃんの才能には舌を巻く。「え？ この人、素人なの？ どこかの劇団から参加してるとかでしょ？」と誰もが思う。加えて、何ども言うけれど、めちゃくちゃイケメンなのだ。でも、本人は「またまたあ～！ そんなこと言つてえ～！」と、大真面目で謙遜するのだ。男前で演劇の才能抜群だけでなく、穏やかで優しくて、めちゃくちゃ「ええ人」なのだ。「ええ人」過ぎて、自分に「全国区の才能」があることに全然気づいていないのだ。

木こりの俳優として、メジャーデビューを果たしてほしい。大きさではない。嘘だと思う人は、ご本人に会ってみるとわかります。



季節の果物：いちご・梨・ブルーベリーなど



自家焙煎珈琲店複数あり



緑茶・野草茶などお茶いろいろ



季節の果物：文旦・はっさく・夏みかん・ゆずなど



季節の果物などをを使った和菓子・洋菓子いろいろ

★NPO職員兼古民家カフェ・スタッフ  
たまに町民モデル

## 敷地 鮎美

AYUMI SHIKIJI



古民家カフェ・半平というところがある。明治時代に建てられた豪壮な木造邸宅で、戦後は旅館として使われていた。貴重な建築物であるため、修復・復元し、現在はカフェやイベントなどに利用されている。たいへん美しい建築である。カフェを切り盛りする二人も

たいへん美しい。

二人は、地域住民の生活全般を支援していくこうとする地元のNPO法人「LIFE」の職員である。古民家カフェ・半平は現在「LIFE」が管理している。

文さんは、地元で生まれ育って、地元で結婚して、地元でお母さんになった。バッチャリ田舎の人である。でもちょっとだけ、高知市内にいたことがある。旅行会社の添乗員として5年間。「だいたいは行きましたよ」北海道から沖縄の離島まで、日本中だ。「ちょっとだけ」にしては濃密だ。だって、たった5年の間にその目で日本中を見てきたのだ。しかも、ものすごくたくさんの人のニーズに応え



★NPO職員兼古民家カフェ・スタッフ  
たまに町民モデル

## 嶋岡 文

HUMI SHIMAOKA

て、コミュニケーションしてきた人なのだ。鮎美さんも地元で生まれ育ったのだが、高校卒業と同時に県外で就職した。でも、すぐ帰ってきた。すぐにふるさとが恋しくなったのだ。小学校の支援員や病院の事務などの仕事をやってきた。いろいろ仕事はしたけれど、やっぱり子どもに関わることがしたいと、子育て支援も手がける「LIFE」の職員になった。

二人の魅力は内面からにじみ出ているものである。二人が作り出すカフェの空気感は特別である。ナチュラルすぎるナチュラル感。

地元制作の雑誌や観光ガイドブックのモデルでもある。

二人とも、こんな田舎で生まれ育ったはずなのに、全然野暮ったくない。

醸し出す空気が洗練されていくのだ。かといって、全然都会的でもない。

なんなんだ！この二人は！



# 楽しいにんげん

THIS IS THE PEOPLE.

ヤバい人ではない。

四万十町には、ヨーロッパスタイルの「滞在型市民農園クラインガルテン」がある。22の「ラウベ」と呼ばれる宿泊棟があって、各々に菜園が付いている。県内外からの利用者たちが、それぞれのライフスタイルに合わせて、農的暮らしを楽しんでいる。この怖そうな人が管理人。

残念ながら全然怖くない。拍子抜けするほどだ。利用者さんたちが、より充実した農的暮らしを実現できるように、日々心を砕いている。この仕事をする前は、趣味の音楽活動に「うつを抜かし」ながら、すぐ近所にある実家で家族とともに農業を営んでいた。今もバンドはやっていて。ギターとボーカル担当だ。



★クラインガルテン管理人

## 島岡 良有

YOSHINO SHIMAOKA

高知市内のライブハウスに出演もするし、たまに、大阪のライブハウスからもお呼びがかかる。

この頃ママっているのは、クラインガルテンの利用者さんたちとカラオケを楽しむ時に、生ギターを合わせる事なんだそうだ。「これがなんと楽しい！」と言うのである。

見かけによらないのはそれだけではない。文才があって、新聞にコラムを連載していることもある。なんども言うが、ヤバい人ではない。遠くからこの人を見失して「あ、怖い！」近くまで行っても「やっぱり怖い」じっくりみると「かわいい目！」話してみると「なんと優しくて柔らかい人！」知れば知るほど「優しくて柔らかくて深くて頼りになる人！」

ヤバいくらいだ。



四万十町は四万十川だけが美しいのではない。海がまた、びっくりするほど美しい。そんな美しい海に面した志和地区は高齢化が進む典型的な過疎の地区である。

田舎では特に、高齢者の生活は不便ことが多い。

田畠の手入れ、草刈り、お墓の掃除、家の補修、買い物、各種行政手続きなどなど。

しかし、志和には中野さんがいる。なんでもできる中野さんがいる。決して断らない中野さんがいる。

東京で大工や水道工事をしながら10年ほど暮らした後、29歳か30歳の時に(本人もはっきり覚えていないらしい)、この「自給自足的昔ながらの暮らし」を続ける志和に帰ってきた。親戚の生活の手助けから始まった。

「うちの墓までの道の草を刈ってくれんか?」「了解!」



ついでにその周囲も刈った。

ありがたがつてもらえた。

「うちの田んぼの周りの草を刈ってくれんか?」「了解!」

「了解!」

すごくありがたがつてもらえた。

「うちの家の壊れた雨樋を修繕してもらえたか?」「了解!」

「了解!」

断らない。必ず助けに来てくれる。

ミッションが完了すると「よし!またひとつ自分の経験になった!」

そう言って家に帰っていく。

たまにミッションに失敗した時は「ごめんなさい」と謝るらしい。

ウルトラよろずマンもとっても「ええ人」だ!



★ウルトラよろずマン

## 中野 正延

MASANOBU NAKANO

# 楽しいにんげん

THIS IS THE PEOPLE.

# 楽しいにんげん

THIS IS THE PEOPLE.



★波乱万丈即答即決人生

松本 綾香

AYAKA MATSUMOTO

施 小龍

SHI SHAORON

あっという間の波乱万丈  
即答即決人生の二人だ。  
綾香さんが神戸の大学に  
通っていた時のアルバイト先には、たくさんの中  
国人留学生がいたのだそう

だ。その時に実感したことは「中国人ってな  
んてみんな優しいんだろう！行ってみたい！」  
大学を卒業して、そのまま神戸で教員になっ  
た。2年後、念願だった中国留学を果たすの  
だが、留学にあたって、アルバイト時代から  
の友人だった中国の男性から、彼のいとこを  
紹介してもらった。それが小龍さんだ。メー  
ルなどで小龍さんと2ヶ月間やりとりをした  
後、とうとう上海の土を踏んだ。

小龍さんは、上海から鉄道などで約8時間の  
ところにある福建省・福清市で生まれ育って、  
16歳で南米のエクアドルに渡った。お父さ  
んがその数年前から、エクアドルでレストラ  
ンを開業。お店はなかなか忙しく、それを手  
伝うためだった。10年後、一家で福清市に  
戻った。綾香さんとの交流が始まったのは、  
ちょうどその頃だ。

さて、上海の空港に降り立った綾香さんを小  
龍さんがお出迎え。実は、事前に綾香さんの  
写真を見て好意を持っていた小龍さん。交際  
から3ヶ月で、小龍さんからプロポーズ。綾  
香さんは困った。故郷の四十町に帰ってゲ  
ストハウスを開くという夢があるのだ。この

まま中国で暮らしていくわけにはいかない。思  
い切ってそれを小龍さんに打ち明けた。

「オッケー！」拍子抜けするほどあっさり！  
ほどなく中国で結婚し、半年後には二人で帰  
国。しばらく神戸で働いて資金を貯めてから帰郷。念  
願のゲストハウスを開業した。ところが、それだけでは  
終わらない。小龍さんの料理の腕を生かし、中華レス  
トランまで開いてしまったのだ。

こんなポジティブな二人だって、やりたいこ  
とが出てきた時、いろいろ考えて迷ったり、  
それなりに思い悩んできたんだろう。きっとそ  
うに違いない。でも結局、やりたいことはや  
ってしまうんだ。

二人ともそういう人なんである。

# 楽しいにんげん

THIS IS THE PEOPLE.

## 楽しいにんげん

THIS IS THE PEOPLE.



### 楽しいお寺

IWAMOTOJI TEMPLE

四国八十八箇所霊場 第三十七番札所  
藤井山五智院 岩本寺



お遍路さんが巡礼する四国八十八箇所のお寺  
の一つである。ここ岩本寺は第三十七番所にな  
っている。三十六番の青龍寺と、三十八番の金剛福寺との距離が長く「歩き遍路」の場合、  
ここで宿泊するお遍路さんが多いとされている。  
岩本寺は、四国で唯一「不動明王」「觀音菩薩」「  
阿弥陀如來」「藥師如來」「地藏菩薩」の5  
つのご本尊がある。本殿の天井に飾られている  
全国から公募された575枚の絵画はとても  
楽しく見てることができる。

また「三度栗」「桜貝」「子安桜」「口なし蛭」「筆  
草」「尻なし貝」「戸たてずの庄屋」という弘  
法大師にまつわる七不思議という、ちょっと不  
思議で楽しい伝説が残っている。



★地域おこし住職

窟 博正

HIROMASA KUBO



お遍路が楽しい。  
お寺が楽しい。  
住職さんが楽しい。  
住職さんが楽しいお寺は楽しい。  
四十町・雀川にある、四国八十八箇所霊場  
の第三十七番札所「岩本寺」住職の窟さんは  
楽しい方だ。2019年4月の時点ではまだ副  
住職なのであるが、5月から住職となる。  
ここ岩本寺に生まれた。ご本人曰く「高校卒  
業後、神戸にある普通の大学に進学して、普  
通に就職しました」お寺を離ぐ気持ちには  
なかったという。お父さんの姿を見てきたから  
だ。まずはいい。休みがない。

ところが「思うところあって」仏教を学ぶこ  
とができる大正大学に入りなおした。これが  
ことのほか面白かったのだそうだ。仏教の世界観に入り込  
んでいった。

大正大学を卒業した後は、京都・智積院で1年間の修行生  
活を送り、その後再び大正大  
学大学院博士前期課程で仏教学を学んだ。  
そして29歳で帰郷。住職であった父に付いて  
現在に至っている。

窟さんは、岩本寺のこと、仏教のことなど  
まらず、生まれ育った故郷のまちづくりのこと、  
ここに暮らす人々のこと、ここにやって  
くる人々のことを考えている。皆が楽しく生  
きていけるために、お寺としてできることを  
いつも考えている。

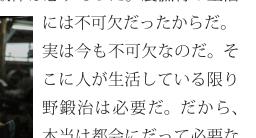
お寺の地域おこし実践家というか、地域おこ  
しのお坊さんというか。



★名人に見えない名人

梶原 弘資

HIROSHI KAJIWARA



この人は野鍛冶だ。しかも名人だ。  
鍛冶屋にも種類があって、製鉄業を行う人を  
「大鍛冶」、刀鍛冶のことを「小鍛冶」、包丁、  
漁具、農具、山林刃物などを手がける鍛冶屋  
を「野鍛冶」という。かつて農漁村には野鍛  
治が集落に数件は必ずあった。農漁村の生活

には不可欠だったからだ。  
実は今も不可欠なのだ。そこ  
に人が生活している限り  
野鍛冶は必要だ。だから、  
本当は都会にだって必要な  
のだ。駆前に鍛冶屋さんが

あって、出勤前に「これ、帰るまでにお願い！」  
と言って包丁やハサミなどの生活刃物を預け  
ていけば、帰宅時にはキレッキレにしてくれ  
ている！なんてことになれば、帰宅後の家事  
だって、楽しさと意欲が増すというものだ。

さて、梶原さんは、その野鍛冶業の六代目だ。  
野鍛冶も刀鍛冶同様、刃物の切れ味や使用感、  
美しさについては妥協しない。刀鍛冶が刀と  
向き合うときのあの鋭い眼光は万人の知るところだ。野

鍛冶・梶原 六代目へあらゆる刃物と向き合う時の眼光  
は、刀鍛冶のそれである。違うところは、刀  
鍛冶にはどこか近寄りがたく、話しかけにく  
いものがあるのに対して、梶原六代目は親し  
みやすく、話しかけやすいところだ。そして

ユーバーの要望を徹底的に聞いてくれるところだ。  
刃物作家としてのクリエイティビティと、  
野鍛冶職人としての謙虚な探究心。  
その両方を武器に、目と手が働く。刃を研ぎ、  
磨き、技を研ぎ、磨かれる。

梶原六代目へ絶大な信頼を寄せ  
るのは、地元住民だけではない。全国からあらゆる刃  
物の制作やメンテナンス依頼が来る。包丁・鉈・鍔・鎌・  
斧・狩猟用ナイフ・・・。

そんな梶原六代目のもとに近所の人が、今日も一人二  
人と、出来上がりを受け取りにやってくる！  
「あれできちゅう？」まるで商店街の店主のよう  
な名人が答える。

「できちゅうよ～」



まま中国で暮ら  
していくわけには  
いかない。思  
い切ってそれを  
小龍さんに打ち  
明けた。



こんなポジティブな二人だ  
とが出てきた時、いろいろ考  
えて迷ったり、  
それなりに思い悩んで  
きたんだろう。きっとそ  
うに違いない。でも結局、やりたいこと  
はやってしまうんだ。

二人ともそ  
ういう人なんである。

## 町の観光名所 SIGHTSEEING SPOT

詳細は四万十町観光協会  
[shimanto-town.net/](http://shimanto-town.net/)



下津井めがね橋



久木の森山風景林



旧竹内家住宅 国指定重要文化財



へんろ道



松葉川温泉



古民家カフェ半平 旧都築邸



龍王の滝



こいのぼりの川渡し



JR予土線トロッコ列車



ヒノキカグ



海洋堂かっぱ館



海洋堂ホビーライブ四万十



道の駅四万十とおわ



道の駅四万十大正



道の駅あぐり窪川



旧門脇家住宅 国登録有形文化財



四万十ヤイロチョウの森 ネイチャーセンター



石の風車

MIGRATION 移住

川沿いの集落に各1棟整備しています。ご利用期間は1～3カ月。月1万円と光熱水費を負担すれば利用することができます。また、施設内にはひと通りの電化製品等を備えていて、着替えと飲食物さえ持ち込めば、生活することができます。

いずれの施設も、入居期間中の地域住民との触れ合いを大切にしています。3カ月の利用では、短く感じられるかもしれませんのが、将来の移住に向けて、町としてもできるだけバツクアツブしていくことを考えていました。

お試し滞在住宅。

都市部などでは、児童・生徒数が多いため、教員の目が届かず様々な問題が起っています。四五十町の「子どもが減った」という悩みは、実は「教員の目がしつかり行き届く少人数でのクラス運営ができる」という、教育的には抜群のメリットとなっています。「都会の大きな学校ではうまくいかなかつた」という児童・生徒が、ここでは生き生きと蘇ったという例もあります。あまりにも児童・生徒数が減ってしまった学校は統廃合になってしまったりする例もありますが、「ちょうど良い小ささ」の学校というのは、教育的效果を考えた時には大きな利点です。

# EDUCATION 教育

しつかり目の行き届く児童・生徒数。

ここは宇宙の一角であることを思い出す。いつでも泳げる川や海がある日常。四季折々の表情を見せる自然を観察しながら、また、田畑を子どもと一緒に耕作しながら、自然からいたたく私たちの食べ物がどのようにして育つかを目の当たりにできる日常。そんな毎日に中で、ゆったり子育てをしたいと思いませんか？

## 豊かで美しい自然環境



## 都会にはないお買い物の楽しみ

大都市を基準に見てみると、地理的には確かに四万十町は「僻地」です。しかし、けつして「情報僻地」ではありません。



ケーブルテレビ網を  
全町域に整備。

移住後も、町外に住む家族や友人とのつながりを大切にしていけるために、また、田舎にいても、世界の情報とリアルタイムでつながれる環境であることは、とても重要なことです。

四万十町では、全町域でケーブルテレビ回線を利用して、高速インターネットにつなげることができます。利用料金は、町が整備した施設ですので、かなり抑えられています。

抜群のインターネット環境

救急医療病院あり、  
国保診療所あり、開業医あり

国保診療所あり、開業医あり

o

療

The image shows the front cover of a book titled 'Shimanto Klein Garten'. The title is written in large, white, serif letters across the top half of the cover. Below the title, there is a circular logo containing Japanese characters. Underneath the title, smaller text reads '渋在型市民農園 クラインガルテンしまんと'. The bottom half of the cover features a photograph of a woman wearing a hat and a dark jacket, standing in a garden. She is holding a watering can and a red garden tool. In the background, there is a house with a tiled roof and some bare trees under a clear blue sky.



ケラインカルテンしまんと  
重一也戯二、百百五丈寸々、童農園2区画六、童

事の希望」も多種多様だと思います。  
四十万十町役場では、仕事の斡旋はできませんが、人の紹介などはできます。  
さらに、公的支援制度を利用できない  
かなど、できる限りご相談にお応えし  
どうをお気軽にお声掛けください。

四十万町には、新规就農をされた方がたくさんおられます。その中には、様々な公的支援が無い頃に就農された方も多数おられますし、公的支援を利用して就農された方もおられます。

また、林業の現場に就職された方や、町内で起業された方、あるいは、移住されてから求人情報などを使つて職に就かれた方、お店を開店された方、さらには、ネット環境の良さを活かして仕事をされている方など多種多様。

こへから多主を希望される方の「土



## WORK 仕事

KLEIN GARTEN 溪在型市民農園

## MEDICAL FACILITIES 医療

# MAP

高知県高岡郡四十町



山と川と海と  
田んぼと畑と  
青空と星と  
鳥と魚と虫と  
楽しいにんげん

四十町は、平成18年3月20日に高知県の窪川町、大正町、十和村の2町1村が合併して誕生した。位置は県都である高知市から南西に約100km。東から西に流れる四十川の中流域にあり、東南部は太平洋に面している。町域は東西43.7km、南北26.5km、総面積642.09km<sup>2</sup>で、そのうち林野が87.1%を占めている。

高知自動車道の四十町中央インターチェンジや、JR窪川駅のある窪川地区が、東の玄関部にあたる。窪川駅周辺は住宅や商店も多く、また四十町役場本庁舎や民間の救急病院などもあり、町の中心的なエリアとなっている。そこから離れていくにしたがって、住宅もまばらになり、山、川、田、畑に囲まれたのどかな風景が続いている。集落の多くは四十川とその支流の河川沿いや台地上にあり、また窪川地区の南東部に向かうと、目を見張るような美しい太平洋に面した漁村がある。沈下橋のかかる四十川も絶景なら「対岸はオーストラリア」の四十の海もまた絶景である。

← 十和地区 → 大正地区 → 窪川地区 →

## 十和地区

四十町西部（旧十和村）は、中心部を東から西に四十川が蛇行して流れ、川沿いに農地が点在しているが、総面積の約9割を山林が占めているため、大正地区と並んで古くから林業が盛んであった。決して広い田畠ばかりではないが、農業も精力的に行われている。また、椎茸の生産が盛んな地域でもある。

今では全国各地で行われている「こいのぼりの川渡し」だが、実はこの十和地区が発祥の地で毎年4月中旬から5月終わり頃にかけて、約500匹のこいのぼりが四十川上空を泳ぎ、その絶景に観光客が足を止める。カヌーやラフティング等の川遊び施設には毎年全国からたくさんの人リビーターが訪れている。

JR土佐佐駅周辺と、JR十川駅周辺に小さな商店街があり、昭和に国保診療所、十川に町役場十和地域振興局があり、住民の生活をサポートしている。

## 大正地区

四十町中部（旧大正町）は、西部の十和地区と東部の窪川地区に挟まれた、町中央部に位置する、林業の盛んな地域。樺原（ゆすはら）川が四十川に合流するところでもある。木造の可愛らしい駅舎のJR土佐大正駅の周辺に住宅や商店が集まっている。平成20年に改築された国保（国民健康保険組合）診療所やイベントホールなどが整備され、また、町役場の大正地域振興局もここにあり、大正地区的行政サービスをおこなっている。

さらに、全国でも珍しい「自然環境コース」が設置されている県立四十川高校があり、四十川の保全活動に力を注いでいる。生徒たちは、地元の中学校からだけでなく全国各地から集まっている。また、地域おこし活動が活発な集落では、様々なイベントが繰り広げられていて、県外からも人気がある。

## 窪川地区

四十町東部（旧窪川町）は、町の東の玄関にあたる。地図上では最も海に近い位置でありながら、十和、大正地区よりも標高が高い台地となっており、四十川は源流から海を目指して南進するが、この「高南台地」に阻まれるため「山奥へ下る？」ように西進する。

窪川駅周辺に住宅や商店が集まっていて、町役場本庁舎や病院などもあり、町の中心的役割を担っている。街中の一角に、お遍路さんが行き交う第三十七番札所の「岩本寺」があり、町の象徴的な役割を果たしている。また、中心部から一歩はずれた周辺部には、約2,000haの農地が広がっていて、十和、大正地区に比べると、比較的広々とした土地が多い。さらに、地図にある興津や志和方面に行くと、目を見張るような美しい太平洋が広がっている。